



## 平成24年度長野県立病院機構の決算がまとまりました

平成24年度地方独立行政法人長野県立病院機構の決算概要は、以下のとおりです。

## 1 延患者数の状況

入院患者数は24万973人で、前年度比△6,818人、2.8%の減少となりました。

外来患者数は41万3,326人で、前年度比△1万4,264人、3.3%の減少となりました。

## 2 損益の状況

医業収益は162億4,995万8千円で、前年度比4億6,615万5千円、3.0%の増加となり、3年連続して過去最高額を更新しました。

患者数は減少しましたが、診療報酬がプラス改定であったこと、新たな施設基準を積極的に取得したことなどから全病院で患者1人1日当たり診療単価が増加し、入院収益、外来収益とも増加しました。

医業費用は一部病院で診療体制の強化により給与費が増加しましたが、減価償却費の減などにより全体では8,280万6千円、0.4%の増加となりました。

経常損益は3億3,274万8千円の経常利益となり、前年度を3億9,297万5千円上回り、独法化以後、3年連続して中期計画を上回る経常損益を計上しました。

なお、阿南病院の改築に伴う減損損失など臨時損益△2億6,468万6千円を計上したものの、当期純損益は6,806万1千円の純利益となりました。

機構全体及び各病院の損益の状況

(単位：百万円)

科 目	機構全体	須坂	駒ヶ根	阿南	木曾	こども
経常収益	22,225	6,157	1,839	1,585	4,338	7,512
医業収益	16,250	5,014	1,267	1,027	3,466	5,476
うち入院収益	11,374	3,421	841	448	1,995	4,669
うち外来収益	4,490	1,384	419	532	1,377	778
運営費負担金収益	5,100	1,058	493	532	800	1,843
その他経常収益	875	85	80	26	72	193
経常費用	21,892	6,117	1,942	1,601	4,222	7,178
医業費用	20,088	5,839	1,867	1,564	4,015	6,803
うち給与費	10,800	3,097	1,213	840	2,034	3,617
うち材料費	4,114	1,234	264	340	890	1,386
うち減価償却費	2,304	724	179	105	476	820
うち経費	2,797	768	204	274	604	947
その他経常費用	1,805	278	75	37	206	375
経常損益	333	41	▲103	▲16	116	334
臨時損益	▲265	▲1	▲13	▲252		
当期純損益	68	40	▲116	▲268	116	334

※端数処理により、内訳と合計が一致しない箇所があります。

※機構全体には、介護老人保健施設、本部を含みます。

決算内容の詳細は、次頁以下のとおりです。

長野県立病院機構本部

担 当 (局長) 平林 信 (担当) 柳沢由里

電 話 026-235-7156 (直通)

026-232-0111 (代表) (内線2695)

F A X 026-235-7161

電子メール honbu@pref-nagano-hosp.jp

# 平成24年度長野県立病院機構の決算について

長野県立病院機構本部事務局

## 1 概要

- 経常収益：222億2,508万2千円（前年度比、4億7,578万1千円増加）
  - ①患者数は減少する中で、1人当たり診療単価の増加による医業収益の増
    - ・全病院：診療報酬のプラス改定の影響  
診療体制の整備により新たな施設基準を積極的に取得
    - ・須坂病院：7対1看護基準による通年診療
    - ・こども病院：他病院との連携などにより高度医療を必要とする患者を積極的に受入れ
  - ②一部病院では医業収益が伸び悩み
    - ・医師数の減少（須坂△2人、阿南△3人）
    - ・看護師不足による病棟閉鎖（須坂、木曾）
- 経常費用：218億9,233万4千円（前年度比、8,280万6千円増加）
  - ・診療体制強化のための人件費の増（こころの医療センター駒ヶ根、木曾、こども）
  - ・医療機器等の減価償却期間満了による減価償却費の減
- ◎ 経常損益：3億3,274万8千円の黒字（前年度比、3億9,297万5千円の改善）
 

独法化以後、3年連続中期計画を上回る経常損益を計上  
 医業収益は過去最高額を3年連続して更新  
 須坂病院は赤字から黒字へ大幅改善（改善額2億8,529万6千円）
- ◎ 当期純損益：6,806万1千円の黒字（前年度比4億343万2千円の改善）
  - 阿南病院の耐震化に伴う旧病棟の減損損失など臨時損益▲2億6,468万6千円を計上

## 2 損益の状況

### (1) 全体

(単位：千円)

科 目	平成24年度	平成23年度	平成24年度計画	増減(24-23)	増減(決算-計画)
<b>経常収益（ア）</b>	<b>22,225,082</b>	<b>21,749,301</b>	<b>22,707,739</b>	<b>475,781</b>	<b>▲ 482,657</b>
医業収益	16,249,958	15,783,803	16,747,203	466,155	▲ 497,245
うち入院収益	11,374,473	11,024,917	11,904,351	349,556	▲ 529,878
うち外来収益	4,489,807	4,372,062	4,453,664	117,745	36,143
介護老人保健施設収益	412,438	431,187	434,160	▲ 18,749	▲ 21,722
運営費負担金収益	5,100,000	5,100,000	5,100,000	0	0
その他経常収益	462,686	434,311	426,376	28,375	36,310
<b>経常費用（イ）</b>	<b>21,892,334</b>	<b>21,809,528</b>	<b>22,489,646</b>	<b>82,806</b>	<b>▲ 597,312</b>
医業費用	20,087,764	19,982,496	20,613,914	105,268	▲ 526,150
うち給与費	10,799,931	10,644,298	11,084,726	155,633	▲ 284,795
うち材料費	4,113,918	4,076,512	4,195,357	37,406	▲ 81,439
うち減価償却費	2,304,275	2,391,289	2,335,569	▲ 87,014	▲ 31,294
うち経費	2,797,079	2,784,071	2,923,449	13,008	▲ 126,370
介護老人保健施設費用	428,879	472,896	466,198	▲ 44,017	▲ 37,319
一般管理費	346,195	318,679	346,085	27,516	110
財務費用（支払利息）	646,940	678,006	683,715	▲ 31,066	▲ 36,775
その他経常費用	382,556	357,451	379,734	25,105	2,822
<b>経常損益（ア-イ）</b>	<b>332,748</b>	<b>▲ 60,227</b>	<b>218,093</b>	<b>392,975</b>	<b>114,655</b>
臨時損益（ウ）	▲ 264,686	▲ 275,144	▲ 6,193	10,458	▲ 258,493
<b>当期純損益（ア-イ+ウ）</b>	<b>68,061</b>	<b>▲ 335,371</b>	<b>211,900</b>	<b>403,432</b>	<b>▲ 143,839</b>

## (2) 病院別

- 須坂病院：7対1看護基準の通年診療等による収益の増、費用の圧縮により損益の大幅な改善
- こころの医療センター駒ヶ根：新病院改築による減価償却費の負担等により赤字（2年連続）
- 阿南病院：医師数の減少の影響による患者数の減少により赤字へ
- 木曾・こども病院：黒字を維持（木曾：14年連続、こども：5年連続）

(単位:千円)

区分	須坂	駒ヶ根	阿南	木曾	こども	老健	本部	計
経常収益 (前年度比)	6,157,473 (101.8)	1,839,273 (103.4)	1,585,181 (94.8)	4,337,902 (100.0)	7,511,822 (105.8)	513,508 (96.2)	279,923 (100.2)	22,225,082 (102.2)
経常費用 (前年度比)	6,116,783 (97.2)	1,942,488 (104.2)	1,601,200 (96.5)	4,221,539 (100.5)	7,177,547 (103.4)	483,569 (91.2)	349,208 (108.6)	21,892,334 (100.4)
経常損益	40,690	▲ 103,215	▲ 16,019	116,363	334,275	29,939	▲ 69,286	332,748
純損益	40,105	▲ 115,807	▲ 267,529	116,363	334,275	29,939	▲ 69,286	68,061

## 3 延患者数の状況

### (1) 入院患者数

- 須坂病院：脳神経内科医師の非常勤化、分娩件数の減少により減少
- こころの医療センター駒ヶ根：平均在院日数の減少（75.2日 → 64.5日）により減少
- 阿南病院：医師数の減少（泌尿器科、内科）、医療圏人口の減少の影響により減少
- 木曾病院：分娩件数の減少、近隣の介護施設の増等の影響により減少
- こども病院：他病院との連携や診療体制を強化したことにより増加

	H24決算	H23実績	H24－H23
全体	240,973人	247,791人	▲ 6,818人 (97.2%)
須坂	80,540人	82,757人	▲ 2,217人 (97.3%)
駒ヶ根	33,512人	35,225人	▲ 1,713人 (95.1%)
阿南	16,301人	18,465人	▲ 2,164人 (88.3%)
木曾	58,929人	61,216人	▲ 2,287人 (96.3%)
こども	51,691人	50,128人	1,563人 (103.1%)

### (2) 外来患者数

- 須坂病院：医師数の減の影響により減少
- こころの医療センター駒ヶ根：病院改築や名称変更により受診しやすい環境となり、ストレス関連障害等の患者が増加
- 阿南、木曾病院：医師数の減少や前年度多かった感染性疾患の減により減少
- こども病院：他病院との連携や診療体制を強化したことにより増加

	H24決算	H23実績	H24－H23
全体	413,326人	427,590人	▲ 14,264人 (96.7%)
須坂	130,667人	137,968人	▲ 7,301人 (94.7%)
駒ヶ根	36,787人	35,362人	1,425人 (104.0%)
阿南	53,786人	60,542人	▲ 6,756人 (88.8%)
木曾	138,948人	143,103人	▲ 4,155人 (97.1%)
こども	53,138人	50,615人	2,523人 (105.0%)

#### 4 患者1人1日当たりの診療単価の状況

入院・外来とも、診療報酬のプラス改定の影響や新たな施設基準の積極的な取得により全病院で単価が増加

- 須坂病院：7対1看護基準による通年診療（H23.12届出）
- こころの医療センター駒ヶ根：患者動向に対応し依存症病棟を診療報酬の高い急性期治療病棟に変更
- こども病院：他病院との連携や病床数の増（7床）などにより手術件数が増加

##### ア 入院患者

	H24	H23	H24-H23
須坂	42,475円	40,651円	1,824円 (104.5%)
駒ヶ根	25,105円	22,773円	2,332円 (110.2%)
阿南	27,480円	26,239円	1,241円 (104.7%)
木曾	33,857円	32,789円	1,068円 (103.3%)
こども	90,328円	87,115円	3,213円 (103.7%)

##### イ 外来患者

	H24	H23	H24-H23
須坂	10,590円	9,665円	925円 (109.6%)
駒ヶ根	11,400円	11,160円	240円 (102.2%)
阿南	9,894円	9,655円	239円 (102.5%)
木曾	9,907円	9,345円	562円 (106.0%)
こども	14,642円	14,268円	374円 (102.6%)

#### 5 主な取組事項

##### (1) 須坂病院

- 機構・須高地域の中核機能、県を代表する感染症拠点病院
  - ・内視鏡検査、夕暮れ総合診療、ピロリ菌専門外来、肝臓外来、海外渡航者外来、スキンケア外来の実施
  - ・7対1看護基準の通年算定によるきめ細やかな入院医療の提供  
→入院患者数は昨年度比減となったものの、入院単価の増加により入院収益は増加
  - ・DPCの合計係数の増加（23年度：1.1888 → 24年度：1.2685）
  - ・時間外勤務縮減対策の実施 → 23年度比16,693時間（26.8%）の削減
  - ・院内保育所「カンガルーのぽっけ」の開設

##### (2) こころの医療センター駒ヶ根

- 精神科救急医療や専門医療を担う地域にひらかれた本県の精神科医療の中核病院
  - ・精神科救急医療においては、南信地域における拠点病院であるとともに、県内唯一の常時対応型施設として県下全域から患者を受け入れ
  - ・デイケアプログラムの充実  
→疾病に着目した「うつ病」や「思春期」プログラムにより多様化する患者に対応
  - ・急増する外来患者に信大医学部の非常勤精神科医師3名が週3日勤務する体制などで対応
  - ・児童・思春期精神科入院管理料等を届出、依存症病棟で精神科急性期治療病棟入院料を算定（11月から）

##### (3) 阿南病院

- 地域に寄りそう下伊那南部地区唯一のへき地拠点病院
  - ・直腸癌などの悪性腫瘍、腹腔鏡下などの外科手術の実績が向上  
（外科手術 23年度：42件、5,504千円 → 24年度：27件、7,983千円）
  - ・リハビリテーション機能を訪問リハなどで充実（件数 23年度：1,679件 → 24年度：1,760件）
  - ・入院患者へのリハビリの実施率を20%以下から50%程度に向上させ収益が飛躍的に増加  
（リハビリ入院収益 23年度：6,261千円 → 24年度：11,698千円）
  - ・6月放映のテレビ番組を収録したDVD及び小冊子「巡回診療物語」を作成し、当院の特色やブランドをアピール

#### (4) 木曽病院

- 幅広い医療の提供で地域完結型を目指す木曽地域唯一の病院
  - ・リハビリテーション機能の充実
    - 訪問リハを積極的に実施（件数 23年度：1,610件 → 1,760件）
    - 常勤医の確保により実施単位数が増加（単位数 23年度：32,744 → 24年度：35,919）
  - ・医師及び医療技術職員の確保による診療体制の充実
    - 泌尿器科での常勤医師の確保により、入院患者受け入れ等が可能に
    - 神経内科では常勤医1名体制から2名体制とし診療内容を充実
  - ・「サイトウキネン特別出前コンサート」、「おでかけ・ふれあいコンサート」を開催

#### (5) こども病院

- 幅広い分野で県内外に先進医療を提供する県内唯一の小児・周産期専門総合病院
  - ・診療体制の充実 → 4月に生命科学センターを設置し遺伝科に常勤医を配置 など
  - ・入院患者数及び診療報酬改定による入院基本料・特定入院料等の増加
  - ・今年度新たに長野赤十字病院との間で電子カルテの相互参照システムの協定を締結（24年度の提供状況：3病院へ計30件、2病院から計22件）
  - ・予防接種センターを10月に開設し、予防接種に関する情報提供などを実施（相談件数：401件、接種件数：286件）
  - ・チャイルドライフスペシャリスト、医療メディエーター、保健師及び事務職員を採用
  - ・GCUへのプレイルーム整備、駐車場の拡張工事、「しろくま図書館」の全面改修工事を実施

#### (6) 機構全体

- 確実な「データ分析力」に裏打ちされたより良い経営の推進
  - ・月次決算等についての経営状況表を患者数と収支状況などを一覽で確認できる様式へ変更
- 県内医療機関や県民との協働と積極的なコミュニケーションの推進
  - 県民向けの公開講座を開催（全10回開催、参加者計770名）
- 創造的な人材確保・育成策の展開
  - ・医療従事者の確保に向けた取組を強化
    - 医師求人サイトへの広告掲載、医師向けの募集案内の作成、医師研究資金貸与制度の創設
  - ・看護師養成所の設置
    - 看護学校準備室を設置し、平成26年4月の開設に向けた準備を本格化
- 防災対策・危機管理対策の充実
  - 「信州メディカルネット」を活用した遠隔バックアップシステム等を平成25年度中を目途に構築し運用を開始
- 機構独自の新たな人事・給与制度の構築
  - 業務の負担感軽減や人材確保に向け給与制度の見直し等を以下により実施
    - 医師宿日直手当及び自宅待機手当を県内医療機関との均衡を考慮し増額
    - 医療技術職員について給料の特別調整額及び役職業務手当を新設 など

### 6 今後取り組むべき事項（機構全体）

- (1) 機構独自の給与システム等の構築、本部機能の検討及び医師の給与制度・評価制度の構築などによる行政組織からの早期脱却
- (2) データ重視の病院運営などにより経営体制の一層の強化を図るほか、不断の業務運営改善などを通じた経常黒字の維持・拡大
- (3) 医療技術者等の人材の確保を引き続き図るほか、信州医師確保総合支援センター分室機能の充実及び信州型総合医の育成などを通じた県内医療行政への貢献
- (4) 医療行政のツールとしての役割を再認識するとともに県立病院ブランドの確立を目指す